

(別紙3)

秋田県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	低密度地域における捕獲技術の確立
実証地域	秋田県仙北市
実証時期	令和5年4月～令和6年3月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

1 捕獲の状況

平成29年度から事業を実施しており、当初は目撃のあった地域を中心に捕獲事業を実施したが、捕獲なし、あるいは1頭となっていた。全県的に目撃が広がったことから令和3年度は全県域で事業を実施したところ25頭の実績となった。令和4年度から効率的な捕獲圧をかけることを目的に、越冬地における捕獲圧強化を図っており、令和4年度は15頭の捕獲実績となっている。

2 課題

全県域での目撃が広がり分布域の拡大に伴い、有害鳥獣捕獲や狩猟による捕獲頭数も若干増加傾向にあるが、依然として低密度であるため捕獲効率が低い状況となっている。このため、定着したニホンジカに効率的に捕獲圧をかけていくためには、エサ資源等から一定地域に集まる越冬地において効率的に群れ単位で捕獲する技術の確立が必要となっている。

3 地域実証する技術の概要

1 目的

低密度下におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の確立を目指す。

2 方法

ニホンジカの越冬地において、大型の囲いわなと誘引餌により群れ単位で捕獲する手法について実証する。併せて、単独個体については冬期のくくりわなによる捕獲も実証する。

3 期待される効果

低密度地域において群れ単位での捕獲手法を確立し、効率的な捕獲強化を図る。併せて、単独個体については冬期のくくりわな捕獲の可能性を探り、効果的な捕獲を推進する。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

- 本事業は県林業研究研修センター及び国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所と共同し、ニホンジカの越冬地として特定している仙北市田沢湖周辺において、立

木を利用した網製囲いわなを設置した。

- 既設3地区（北岸、下村、二瀬沢）に加え、新たに明確な越冬の痕跡が確認された山居、相内沢地区を追加し、計5地区において、ヘイキューブを用いた誘引捕獲を行った。このうち、下村、二瀬沢地区においては、遠隔監視及び操作が可能なICT装置を用いた。
- 加えて、囲いわな設置箇所の上居、北岸地区と、立地条件から囲いわなの設置が困難な湯尻川地区において、冬期のくくりわなによる捕獲も実証した。
- 囲いわなについては、効果的な誘引手法を確立するための誘引試験も併せて実施（林業研究研修センター）したが、令和5年度は少雪で自然のエサ資源が雪に埋没しなかったことから、囲いわなへの誘引ができず、捕獲に至らなかった。
- 併せて実施したくくりわなについては、湯尻川地区において、ヘイキューブによる誘引捕獲でオスジカ1頭を捕獲した。（くくりわな全体の延べ稼働日数68基日）
- 群れ単位での捕獲については誘引による囲いわななどがベターであると考えられるが、年によって変化する積雪条件等に、捕獲対象とする群れの動態が大きく影響を受けることから、確実な誘引手法が必要となっている。
- 一方、今年度実施した冬期のくくりわなについては、センサーカメラを活用してシカの行動を観察しながらわなを設置することで捕獲に結びついたが、捕獲できたのは幼獣であった。行動を共にしていたメス成獣を捕獲することができなかったことから、選択的な捕獲は難しいものの、囲いわな設置が困難な地域におけるオプションとして活用することは可能であると考えられる。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

5 その他

- 令和5年度は、二瀬沢地区に残置していたICT機器用の電源がクマによる損壊を受けたため、修繕して対応した。同様の被害を防ぐため、取組終了後に電源の回収を行っている。

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。



下村地区 わな設置状況



北岸地区 わな設置状況



二瀬沢地区 わな設置状況

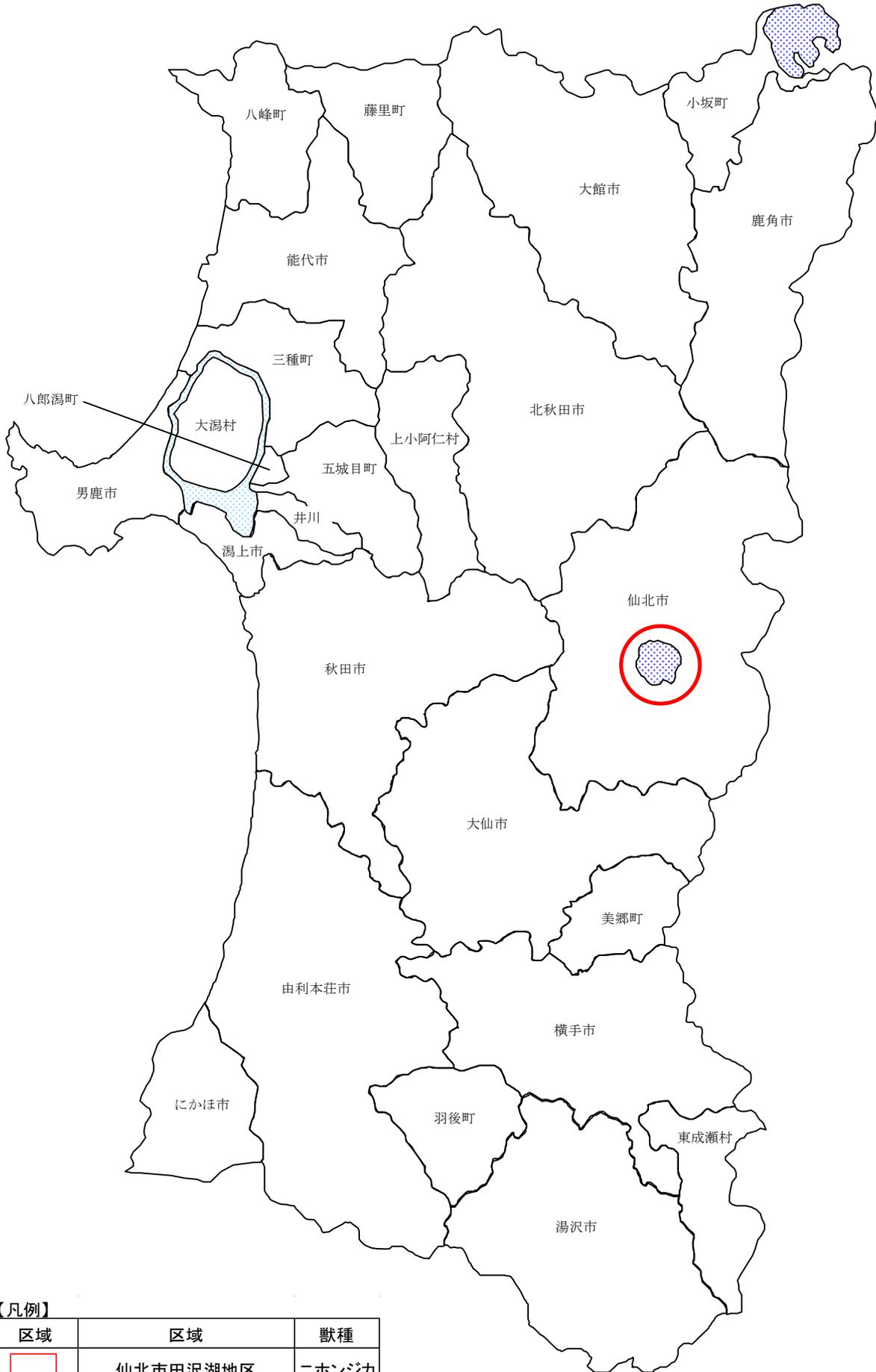


山居地区 わな設置状況



相内沢地区 わな設置状況

令和5年度効果的捕獲促進事業実施位置図



位置図(詳細)

地理院地図
GSI Maps

